

足寄町雌阿寒岳防災マップ

このマップの目的

訪れる人々の心を奪う「オンネトー」のすばらしい風景や、めずらしい「湯の滝」など、雌阿寒岳は私たちの町を語る時に欠かせない自然の恵みをもたらしてくれている山です。しかし、この母なる山もいつでも小さな噴火しか起こさないとは限りません。この『足寄町雌阿寒岳防災マップ』（火山ハザードマップ）は、雌阿寒岳が噴火を起こした場合に考えられる災害の種類、危険区域の範囲、避難場所、あるいは噴火に対する備え・行動などをまとめて示したものです。私たちは、万一大きな噴火を起こしたときにも、この山とうまく付き合っていくことができるよう、ふだんから雌阿寒岳のことをもっとよく知っておくことが大切です。

2000年1月 足寄町

平成8年噴火直後の雌阿寒岳



1996年11月23日 国際航業株式会社撮影

災害に備えて

異常現象を見つけたらすぐ通報を!

足寄町 企画観光課 (01562) 5-2141

釧路地方気象台 技術課 (0154) 41-4440

警察 110 消防 119

火山噴火のまえぶれ!?

地震の頻発

鳴動・地鳴り



湖・川の変化

変色・濁り・水温上昇・におい
有毒ガス・水泡、魚介類の死滅



噴気・火口の変化

新しい噴気(ガス・水蒸気)、噴気口の拡大
噴気量・色・におい・温度の変化、火口の赤熱



地形の変化

土地の隆起・沈降、地割れ・山崩れ・がけ崩れ
湖岸の前進・後退



温泉・湧水の変化

新しい湧出・量・温度・色・においの変化



敵を知る…噴火現象

降灰

火山灰や軽石が降り積もる**降灰**の時は、昼間でも暗くなることがあります。車の通行に注意し、灰を吸い込まないようにしましょう。小石が混じることもあるので、頭にも注意しましょう。



噴石

直径数cm以上、時には1メートル以上の大きな**噴石**が降ってきます。風の影響をあまり受けず、火口から数km以内の範囲に落下します。コンクリートの屋根にも穴をあけることがあります。



火砕流・火砕サージ

高温の火山灰・石・火山ガスなどが混ざり合って山を下ってくるものを**火砕流**、石が少ない高温の砂あらし(爆風)を**火砕サージ**といいます。時速100kmを超える場合もあり、温度も数百℃に達するので、発生してからの避難は困難です。ちょっとした山は乗り越えて、すべてを焼きつくします。



溶岩流

ドロドロに溶けた**溶岩**が低い所を流れてきますが、先端部は固まりつつあるのでガラガラと崩れながら押し寄せてきます。速度が遅いので徒歩でも避難が可能ですが、家や森は焼かれ、**溶岩**(岩石)に埋め尽くされてしまいます。



火山泥流

泥・石・水が混ざり合って谷を下ってくるもので、火砕流の熱などで雪が融かされて発生するものを**融雪型火山泥流**といいます。時速数十kmに達し、量が非常に多いので、ふもとで広い範囲に氾らんして泥の海と化します。高台に逃げましょう。この他、火口から直接泥流が流れ下る**火口噴出型火山泥流**というものもあります。



土石流

雨によって土砂・石・水が混ざり合って谷を下ってくるものを**土石流**といい、谷の出口で氾らんし家屋などを壊します。火山灰が積もった所では少しの雨でも**土石流**が発生しやすくなり、下流に被害を及ぼします。川の近くや谷の出口に近づかないようにしましょう。(土石流は、ふだんでも大雨の時には発生することがあります。)



その他の災害

わが家の避難場所は？

＜ウラのハザードマップに番号で位置を示してあります。＞

番号	避難場所名	住所	電話
①	茂足寄集落センター	茂足寄96	9-7201
②	上足寄集落センター	上足寄本町7	9-7462
③	上螺湾集会所	上螺湾126	9-7269
④	螺湾中学校	螺湾本町13	9-7351
⑤	螺湾基幹集落センター	螺湾本町65	9-7124
⑥	螺湾小学校	螺湾本町65	9-7122
⑦	稲牛集落センター	稲牛172	9-7120
⑧	中足寄集落センター	中足寄58	5-5675

- ・噴火の大きさによっては**危険となる避難場所もあります**ので、役場の指示にしたがって避難あるいは移動してください。
- ・**ハザードマップ**を見て危険なところを覚え、避難の時には十分注意しましょう。
- ・いざという時の**避難場所や連絡方法を家族で確認**しておきましょう。

雌阿寒岳の過去の噴火

平成8年と10年に雌阿寒岳が噴火を起こしたことは記憶に新しいと思います。幸いにもこれらの噴火はごく小規模なものでしたが、雌阿寒岳は過去に何度も大きな噴火を起こしています。たとえば、12,000年前の「中マチネシリ噴火」では恐ろしい火砕流が茂足寄地区にまで達し、1,000～2,500年前の「阿寒富士噴火」では灼熱の溶岩流が上螺湾地区の近くまで流れています。

中マチネシリ噴火

約12,000年前



阿寒富士噴火

約1,000～2,500年前



発行・問い合わせ先：足寄町 企画観光課 TEL 01562-5-2141

監修：勝井 義雄（北海道大学名誉教授）、宇井 忠英（北海道大学教授）、岡田 弘（北海道大学教授）

資料提供：北海道釧路土木現業所、阿寒町 製作：国際航業株式会社

最近、雌阿寒岳で発生している「水蒸気爆発」は、地下のマグマの噴出を含まない小規模な噴火で、わずかな「降灰」や「噴石」がある程度ですが、「マグマ水蒸気爆発」になると、マグマを含むので「火砕流」や「溶岩流」の発生につながる可能性もあります。有毒な「火山ガス」は、ふだんでも谷筋を流れ下ったり、風のない日には凹地にたまってするので、登山道やボッケ・温泉などでは常に注意しましょう。規模の大きな「地震」や、爆発に伴う空気の震えによる「空振（くうしん）」で、建物や窓ガラスに被害がでることもあります。噴火によって山の一部が壊れると、大きな崩れとなって多量の土砂・岩石がふもとに流れ下る「岩屑（がんせつ）なだれ」が発生することがあります。

非常持ち出し品の準備

● 衣料品



● 食料品・飲料水



● お年寄りがいる家庭



● その他



● 貴重品



● 応急医療品



● 赤ちゃんがいる家庭

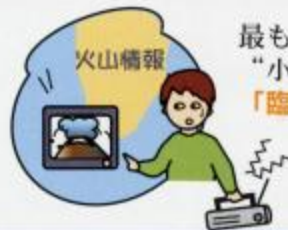


◎非常持ち出し品はいつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

もし噴火が始まったら

あわてず、落ち着いて行動しましょう！

気象台が発表する火山情報に注意しましょう。



最も「危険」な時の「緊急火山情報」「小噴火」又は「注意」を知らせる「臨時火山情報」などがあります。

テレビやラジオ、役場の防災無線や広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

どこでどんなことが起こっているのか、このマップを参考にしながら確かめましょう。



デマに惑わされないようにしましょう。



現在の科学技術では、日時や場所を特定した噴火予測はできません。

町長から避難勧告などの指示があった場合にはそれに従いましょう。

そんなことが起こるわけない。まだ小さい。わが家は大丈夫……などと思い込んではいけません。



避難する時はこんな格好で！

避難は早目に。明るいうちに。安全な場所へ。

小石が降ってくる
ことがあります。

灰を吸い
込まないように

ヘルメット又は
防災頭巾

ゴーグル（目を守る）
リュック
（非常持ち出し品）

熱い空気や降下
物から皮フを
守りましょう

長袖の上着

ズボン

火山灰や泥水
の上を歩くこと
もあります

歩きやすい靴

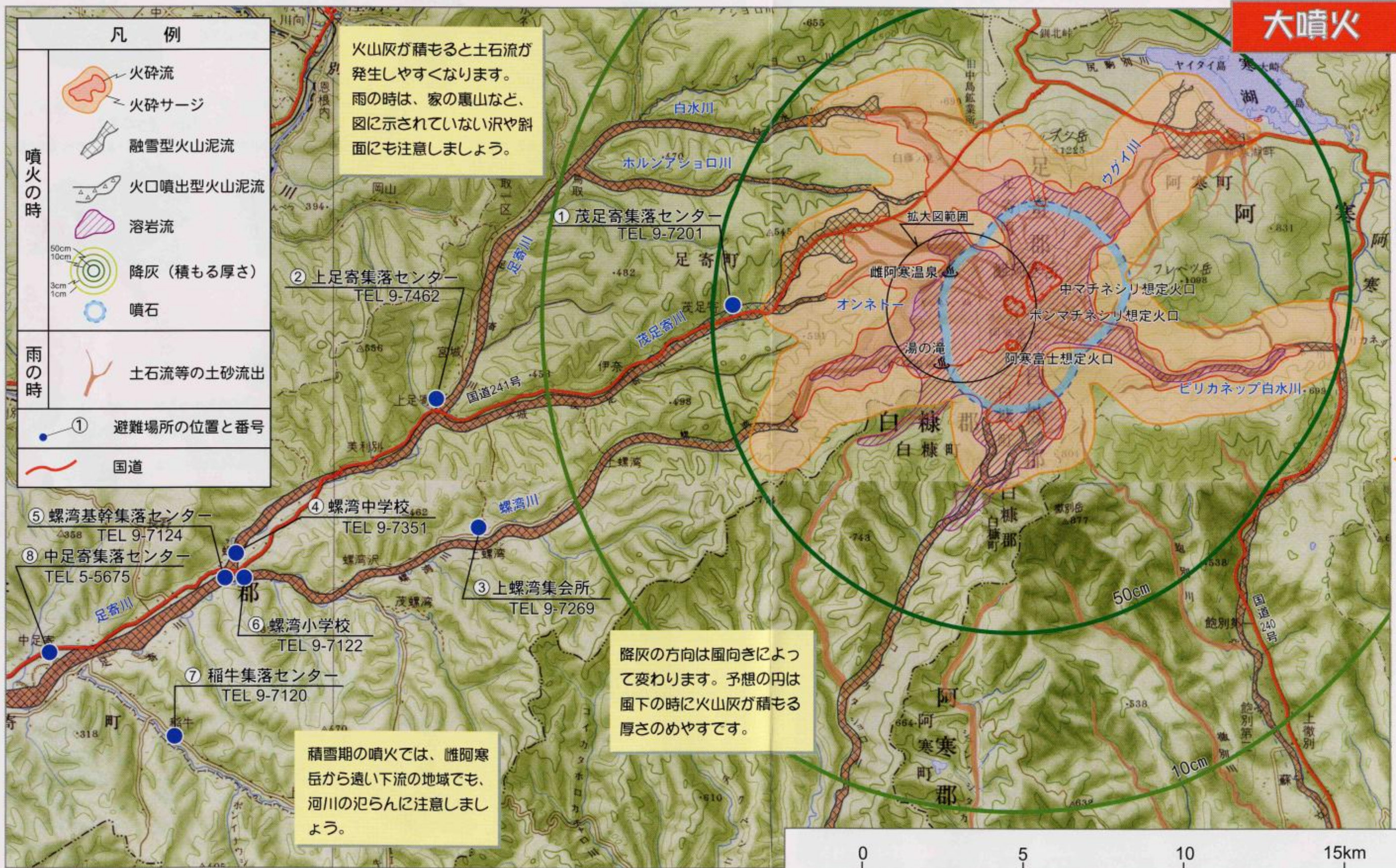
がけや川のそば
はなるべくさけて
避難しましょう

マスク
（濡れタオルも、マスクの
代わりなど、色々と
役に立ちます。）

雌阿寒岳ハザードマップ

マチネ・シリ (女である・山) が怒るとき...

雌阿寒岳はいくつもの山からできています。そのうち、今後、噴火を起こしやすい3つの山(中マチネシリ・ボンマチネシリ・阿寒富士)が噴火したときに起こる現象と危険な場所を予想したものが、このハザードマップです。「大噴火」は過去1万2千年の噴火の歴史から、規模を最大に見積ったもの、一方、「小噴火」は最近千年の活動にもとづいて想定したものです。過去には実際に、千年ほど前に溶岩流が、また、古くは3千年ごとに少なくとも3回(12,000年前・9,000年前・6,000年前)は火砕流が発生しており、ここで想定した大と小だけでなく「中噴火」も起こります。ハザードマップの危険区域はこうした様々な噴火のめやすを示したものです。



どこで・どんな災害が…？

小噴火

- ・ **降灰**は、山麓で厚さ数cm以下です。火山灰の吸引による気管障害や目の異常、視界不良による交通障害に注意します。
- ・ **火口噴出型の火山泥流**が発生することがあり、オンネトー方面へ下ります。登山道はもちろん、キャンプ場や駐車場が泥流に襲われる危険があります。オンネトーに流れ込みますので、湖畔一帯や下流の螺湾川沿いでも氾らんにご注意します。

中噴火

- ・ **降灰**は、山麓で厚さ数cm程度になります。火山灰の吸引による気管障害や目の異常、視界不良による交通障害に注意し、所によっては灰の除去を行います。
- ・ **火砕流**が雌阿寒温泉・オンネトー付近を襲います。**火砕サージ**は、国道241号付近まで達します。雌阿寒岳温泉・オンネトーからの事前避難や国道の通行止が必要です。茂足寄地区でも、避難を考えます。ポンマチネシリの噴火では、さらに上螺湾地区でも避難を考えます。阿寒富士の噴火では、火砕流は発生しないだろうと考えられています。
- ・ **溶岩流**は、ポンマチネシリ噴火の時、雌阿寒温泉やオンネトーに達します。溶岩流は速くないので、あわてずに避難します。阿寒富士噴火では、オンネトーに達し螺湾川沿いに下りますので、オンネトー付近では避難します。中マチネシリ噴火では白水川を下りますが、溶岩流による直接の被害はないでしょう。いずれも、溶岩が川や湖を堰き止めた時には氾らんなどにも注意が必要となります。
- ・ 積雪期に火砕流が発生すると、**融雪型の火山泥流**が茂足寄川・螺湾川・白水川を下ります。積雪期に火砕流発生のおそれがある場合は、各河川沿いの低い土地での警戒や避難、あるいは、国道241号やオンネトー方面への道道などの通行止を考えます。

*「中噴火」の図は示してありません。

大噴火

- ・ **降灰**は、東寄りの風の時には、茂足寄・上螺湾の上流部で厚さ50cm以上、螺湾本町・茂螺湾・上足寄・鳥取でも数cmから10cm程度になる恐れがあります。10cm以上積もると屋根がつぶれるなどの被害が出始めます。国道241号の通行は困難になります。
- ・ **火砕流・火砕サージ**が雌阿寒温泉・オンネトー・国道241号に達して火災を起こします。ポンマチネシリ噴火では、**火砕サージ**は茂足寄・上螺湾の人家付近にまで達します。雌阿寒岳周辺には近づけません！！雌阿寒温泉・オンネトー地区では事前避難、茂足寄・上螺湾地区でも避難が必要です。阿寒富士の噴火では、火砕流は発生しないだろうと考えられています。
- ・ **溶岩流**は、ポンマチネシリ噴火の時、雌阿寒温泉やオンネトーに達します。阿寒富士噴火では、オンネトーに達し螺湾川沿いに下ります。中マチネシリ噴火では白水川を下ります。いずれも、溶岩が川や湖を堰き止めた時には氾濫などにも注意が必要となります。雌阿寒温泉・オンネトーでは事前避難です。
- ・ 積雪期に大規模な火砕流が発生すると、**融雪型の火山泥流**が大量に茂足寄川・螺湾川・白水川などを下り、各河川の低地いっばいに広く氾らんしながら、さらに足寄川を下ります。積雪期に火砕流発生のおそれがある場合は、仙美里ダムまでの川沿いの低い土地では事前の避難が必要です。また、各河川に沿うか、または横断する道路は通行止とします。

大中小噴火共通

- ・ 雌阿寒岳では、**噴石**は火口から約2kmの範囲が危険区域と考えられており、雌阿寒温泉やオンネトー湯の滝付近に飛来する可能性があります。小噴火でも登山者は注意が必要です。
- ・ **地震・空振**による被害は報告されていませんが、歴史が浅いこともありまったく安全とは言えません。**岩屑なだれ**が発生する可能性は低いと思われませんが、もし発生した場合は、火砕流と同じかそれ以上遠くまで土砂・岩石に埋め尽くされることも考えられます。
- ・ 火山灰が数cm以上積もった地域では、少しの雨でも沢や裏山の斜面で**土石流**や**がけ崩れ**が発生しやすくなります。降灰地域やその下流では、雨の時にはその付近の沢・斜面に注意し、大雨が予想される時、あるいは泥水が流れてくるような時には避難します。

噴火のない時

- ・ 普段でも噴煙（噴気）には、有毒な**火山ガス**が含まれており、火口近くの登山道や噴気地帯（ポッケ）、温泉でも中毒を起こすことがあります。風のない日の凹地は特に危険です。
- ・ **土石流**は、噴火にかかわらず普段でも大雨の時に発生することがあります。大雨時には、雌阿寒岳周辺に限らず、人家の裏山のちょっとした沢地形でも、土石流や土砂の流出に注意する必要があります。

この表は、足寄町での**災害**の種類や場所と状況、注意・対応策などをまとめたものです。

小噴火



小
 数十～数百年
 に一回
 ↓
 ごく小さな噴火
 [1996年噴火]
 [1998年噴火]
 数～十数年
 に一回

オンネトー周辺の拡大図

小噴火



オンネトー付近では
 風向きによって
 厚さ数cmの降灰
 があります。

大噴火



オンネトー付近では
 風向きによって
 厚さ50cm以上の降灰
 があります。

